

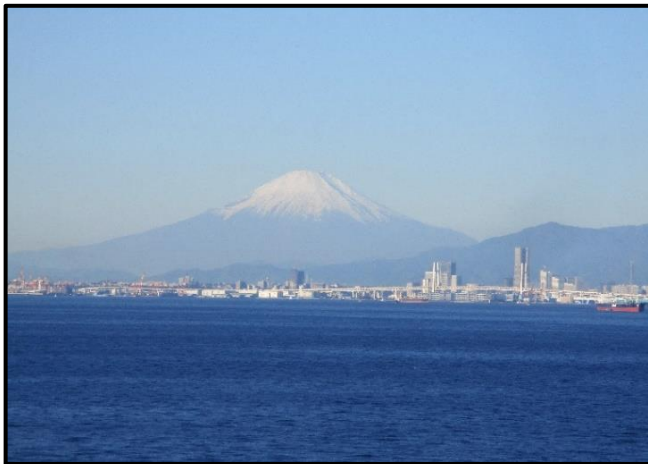
北千東北自治会南房総とペリー公園・三溪園研修旅行

期 日 2024年12月1日

参加者 34人

スケジュール

(7:30)大岡山駅前出発⇒アクアライン・館山道経由⇒
(11:00～12:00)昼食「浜焼き」⇒(12:30)出発⇒金谷港
(13:15)金谷発東京湾フェリー～～(13:55)久里浜港着
ペリー公園上陸記念碑・資料館見学⇒(14:45)出発⇒
(15:50～16:30)三溪園⇒(17:21)大岡山駅着



〈海ほたるから富士山を望む〉



〈金谷フェリーターミナルにて〉

(ペリー上陸記念碑)

公園入口にある「ペリー上陸記念碑物語」と書かれた説明版によると『長い間外国との貿易を制限していた徳川幕府に1853年(嘉永六年) アメリカ大統領の国書をもって来航した東インド太平洋艦隊司令長官ペリーは幕府と交渉し強い態度で開国を迫り、ついに1853年7月14日幕府に大統領の国書を受理させ再来航を約束しアメリカに帰りました。』

この時まで200年以上にわたり外国との交流を閉じていた日本の地に外国の使節団が上陸し、幕府とアメリカの交渉が行われた場所が久里浜であり、新しい日本の夜明けが始まったのです。

ペリー提督が初めて日本の地に上陸してから47年後の1900年(明治33年)10月25日アメリカ退役海軍少将ピアズリーが夫人と共に久里浜を訪れました。ピアズリーは17歳の時、少尉候補生としてペリー提督と共に久里浜に上陸したのです。彼は青年の頃訪れた美しい久里浜にたくさんの思い出があり、アメリカの使節団が初めて訪れた地に何も記念するものがないことを残念に思いました。

ホテルのある横浜に帰ったとき新聞記者に久里浜でのことを話しました。その内容が新聞に掲載されました。また、明治政府の下で近代社会を築きつつあった明治10～20年代には前途有為な人達が留学や働く場所をもとめて欧米に渡りました。特にアメリカに留学し日本に帰国した後、政界や経済界で活躍する人達が集まり、1898年(明治31年)交友の場として米友協会が

設立され、その米友協会の席上でもピアズリーが演説し、このことが契機となって当時の米友協会の会長でハーバード大学で学んだ金子堅太郎男爵(当時)を中心に上陸記念碑建設の運動が起こり



「記念碑建設委員会」が組織され募金や明治天皇の下賜金によって記念碑は完成し、1901年(明治34年)7月14日ペリーの上陸と同じ日に除幕式が行われました。

参列者は桂首相ほか閣僚、徳川家達、榎本武揚、アメリカからはピアズリーやペリーの孫にあたるロジャース少将等、総数1000人で久里浜沖では日米の軍艦が祝砲を放つなど盛大な式典となりました。

日米親善の象徴となった上陸記念碑ですが太平洋戦争中にはアメリカに関するものは敵性のものと憎まれ1945年(昭和20年)2月8日横須賀市の翼賛青年団を中心としたグループに引き倒されました。ところが半年後の8月15日に終戦となり11月に復元されました。

日本の歴史上大切な足跡を刻んだペリー上陸記念碑のもつ意義をこれからも大切に見守ってゆきましょう。

(参考) 記念碑の大きさ 高さ4.5m 重さ11.4t 仙台産の花崗岩
碑の台座は根府川石 刻まれている文字は伊藤博文の書で
「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」と書かれており碑文
を彫刻した石工は横浜の横溝豊吉です

令和4年(2022年)3月 久里浜地域運営協議会

久里浜の文化を考える会』と記されてある。

また、この記念碑は平成19年に横須賀市の指定重要有形文化財(歴史資料)となっており、記念碑の向かって左側にある横須賀市教育委員会の説明版には『この記念碑は、嘉永6年6月9日(1853年7月14日)にペルー提督が久里浜に上陸してから48年後の明治34年(1901年)7月14日、米友協会(会長金子堅太郎)により建立された。総高5.25m。碑前面「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」は初代内閣総理大臣伊藤博文(同会名誉会員)の筆による。

建立の経緯は、明治33年(1900年)11月に開かれた米友協会式典で、ペルーとともに久里浜に上陸した退役海軍少将ピアズリーが上陸の地に日米最初の接点を示す光景が無いことを語り聴衆に感銘を与えたことに始まる。早速、米友協会は記念碑建立を計画し、明治憲法起草に関わった法律家で政界にも影響力の大きい金子が尽力して国内だけでなくアメリカからも建設費用を募り、わずか8ヵ月で記念碑落成式を迎えることができた。こうして建立された記念碑によりペリー上陸の意義は伝えられていつたが、太平洋戦争中には敵国を讃えているとして引き倒されたことがある。しかし、終戦後の昭和20年(1945)11月に復元され現在に至っている。

この「ペリー上陸記念碑」は日本の近代の幕開けを象徴すると同時に日米両国の国際関係の歩みを示す貴重な歴史資料である。』と記されてある。

(平成19年3月12日指定)

(ペリー記念館)

ペリー記念館は横須賀市市制80周年を記念して1987年(昭和62年)に建てられた記念館。

ペリー来航と開国の歴史を広く伝えるため、当時の様子が分かる貴重な資料等を展示している。



「ハイネ画 ペリー久里浜上陸図」横須賀市自然・人文博物館蔵



(三溪園)

パンフレットによると『三溪園は、明治時代末から大正時代にかけて製紙・生糸貿易で財をなした横浜の実業家・原三溪（本名富太郎）が、東京湾に面した"三之谷"と呼ばれる谷あいの地に造りあげた、広さ約175,000㎡(53,000坪)の日本庭園です。明治39年(1906)に一般に公開された外苑と、三溪が私邸としていた内苑の2つの庭園からなり、京都や鎌倉などから集められた17棟の歴史的建造物と四季折々の自然とが見事に調和した景観が見どころとなっている。

三溪は、芸術家や文学者などの文化人たちと広く交流したことで知られ、三溪園は美術・文学・茶の湯など近代日本の一端を育んだ場所でもあります。学術上・芸術上、そして鑑賞上優れていることから、平成19年(2007)には国の名勝に指定され、庭園全域も文化財として位置づけられました。』と書かれてある。

◆国の重要文化財

〈外苑〉

2 旧燈明寺三重塔

室町康正時代：京都より移築

5 旧東慶寺仏殿

江戸寛永時代：鎌倉より移築

6 旧燈明寺本堂

室町康正時代：京都より移築

7 旧矢筈原家住宅（合掌造り）

江戸時代後期：白川郷より移築

〈内苑〉

11 臨春閣

江戸慶安時代：和歌山紀の川より移築

12 旧天瑞寺寿塔覆堂

桃山天正時代：京都大徳寺

13 月華殿

江戸慶長時代：京都伏見城より移築

15 天授院

江戸慶長時代：鎌倉心平寺跡より移築

16 聴秋閣

江戸天和時代：京都二条城より移築

17 春草廬

江戸時代（小間）：織田有楽の作茶室

◆横浜市指定有形文化財

8 鶴翔閣

明治35年三溪が住まいとして建てた

9 御門

江戸宝永時代：京都東山西方寺から移築

10 白雲邸

大正9年：三溪が隠居所として暮らした



